

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

物忘れ日毎多きにたぢろげど老いの過程と開き直りぬ 阿部はぎの上霧晴れて西置賜の朝明けは飯豊朝日を雲の上に見す 後藤今朝雄

さわやかに山峡の棚田わたる風ふるき石積みは蝶をあそぼす 阿部みさ子

娘のくれし痴呆防止の日記帳施設の一日今宵も綴らむ 平間 久子

飢ゑに病む子等のまなこが忘れられず飯一粒も味はひて食む 寺崎 悦子

梅雨時の便りにありし快晴の二文字も温暖化の兆しならん 鈴木 茂子

暑さ来て青田の苗もうれしきか勢い増しておるかと思ふ 後藤 正子

恒例の長命会の西瓜割り棒振る度に起こる爆笑 高子うこん

ぶち猫の如きわが髪洗いつつ染め呉れし亡夫を今宵は偲ぶ 山田 演

収穫の玉ネギ吊せば威張りたい一人でのよと今亡き夫に 鎌田ねい子

【評】一首目、結句「開き直りぬ」がいい。知恵とも言える作者の生きる力だ。

二首目、山谷を思わせつつ大きな朝明けの景を飾らずに詠われた。

三首目、青風の頃の棚田か。石積みは何十年も前から今と同じように蝶を纏わらせてきたのであろう。

俳壇

遠藤 秋尾 選

風と来てためらひのなき蟬の声 岩松 隆志

梅雨出水一変したる地震の里 山家 弘子

一村の青田の色に蘇る 服部 忠孝

蔵王山梅雨には梅雨の山となる 跡部 祐子

好況に入りし講義やほととぎす 岩澤 伍峯

「風評」

風間市長の風のことわざ

7月の新聞に、他県から来た白した方の投稿が載りました。それは「良き人と風物、白石訪れ実感」と題したものでした。

「仙台は何度も行ったのに、なぜか、なかなか足を運べなかったのが、あこがれの城下町、白石。その白石を唯一の目的地と決め、他には寄らない、こだわりの一人旅が六月末に実現した。白石駅に着くや、構内の観光案内所へ向かった。係の女性は、先客の応対で多忙だったが、とっさの気働きで、「どのようになご用ですか」とわたしに尋ねてくれた。わたしは、お城に次ぐ見どころを聞いた。すると彼女は、問髪を入れず、三カ所を教えてくれた。いただいた地図を片手に、まずはお城へ。案内はシニアの男性が生き生きと担当。付属の資料館で映画を見るとよい、と勧められた。見ると、これは良かった。武家屋敷での説明もシニアの方で、先日、吉水小百合さんのロケがそこであったこと、初代城主の生地が偶然、最近わたしが訪れた山形県の長井であったことを教えてもらって、驚き感激した。会話ができて良かった。白石には、良き風物を引き立てる親切な人々の案内と説明があった。

わたしは、この街がいつべんに好きになった。(7月23日河北新報朝刊より)

本当にうれしくなる投稿でしたので、皆さんにも原文のまま紹介させていただきました。この方と接した一人ひとりが、適切に、そして親切に対応した成果だと思えます。「職務上、当たり前」と言われるかもしれませんが、その当たり前のことを、当たり前に行うことが、結構難しいのかもしれない。時として自分の都合や勝手に、相手のことをないがしろにしてしまうことがあるのではないのでしょうか？

この方は、白石のすてきな人たちとの出会いによって、白石が持っている歴史・風物が、より一層輝いて見えたのだと思います。とても素晴らしい出来事です。人が輝き出してきています。本当にうれしい限りです。

【風評】とは、世間の評判やうわさのことです。この「風評」によっては、良くも悪くも大きな影響を受けることがあります。今回の投稿は、白石のイメージアップに大変貢献していただいた事例です。間もなく仙台・宮城ステイネーションキャンペーンの本番が始まります。これを機に、白石市民の「おもてなしの心」を知っていただきましょう。これに触れていただくことで、白石の歴史も、風物も、町並みも、水音も、すべてがより魅力的に、訪れた方の心に残ることでしょう。そして来白した方に、白石の素晴らしいところをご家族や友人に伝えていただければ幸いですよ。地震の風評被害で弱っている宮城の観光を、白石から元気にしましょう。白石をそして宮城県を輝かせましょう！

話は変わりますが、「学ラン」の「ラン」は何のことか、皆さんはご存じですか？

【8月号の答え】

野球規則により、球場はマウンドを中心に、望ましいベースの東西南北方向が定められています。そして左腕投手の左手は、南側の一塁方向にあることから、「南側の手で投げられる人」＝「サウスポー」となったそうです。

柳壇

四電 英夫 選

茄子の花紫に舞ふ白い蝶 制野 リエ

ぬばたまの闇に消へたる不如帰 寺崎 悦子

雷遠くこぶしをひらく赤ん坊 跡部祐三郎

ひたすらに残鶯鳴けるくもり空 福原 峯子

母百歳祝うが如く薔薇盛り 石田みどり

友のくる初成りの茄子揚げて待つ 阿部はぎの

【評】一句目、蟬は、幼虫として7年から10年、土の中で生きる。そして地上に出て3日ほどの命を、雄蟬は子孫を残すために、雌蟬を求めて命の限り鳴くのである。「ためらひのなき」がこの句のポイント。

二句目、岩手や宮城県北の地震か、埋没していく梅雨出水の家に心が痛む。1日も早く立ち直ることを希う。

三句目、過疎の村の田んぼも一面の青田が広がり、昔の村に戻ったようだと言った。結句の「蘇る」が良い。

味噌汁のじゃが芋舌の上で溶け 高子うこん

サミットの開催国で目立つエコ 水戸 光穂

生活の知恵で乗り切る物価高 草野 清

紫陽花に雨は魔法の化粧水 斎藤 典子

孫育つそれと同じく我は老け 阿部みさ子

抜けた髪愛おしそうに見てる夫 寺崎 悦子

原油高値上げの波に沈む浜 遠藤 行夫

ストレスに消えてほしくて経唱え 阿部はぎの

膝痛は加齢によると言われた日 大庭 良子

ハエのヤツ主より先勝につく 高橋ヨウ子

【評】一句目、新ジャガが舌の上でとろける味は格別。まして味噌汁となればなおさら。やっぱり味噌汁は、日本人の味なんだよね。

二句目、サミットの主催国として、省エネや環境問題に大きな関心を呼び起こした日本。ただし、ノドもと過ぎて熱さを忘れないように。

三句目、原油高に端を発した物価高は、とどまるところを知らない。生活の知恵も限界に来ている。早く鎮静化してほしいと祈るばかり。

国際コーナー

International Corner

「便利な国、日本」

外国では、日本のものに人気があることを、皆さんはご存じのことと思います。コミックやアニメ、すし、照り焼き、秋葉原の電気店街、テレビゲーム、日本車、時計、ビジュアル系の音楽など、さまざまなものが注目を集めています。

また、観光スポットとしての日本の評価も上がってきています。海外から想像した日本は、高いテクノロジーを誇る、密度の濃い歴史を持つ面白い国だと思えますが、その面白さのスケールは、日本に来るまではなかなか理解できないと思います。

私の経験では、初めて日本に来てすぐに驚いたのは、自動販売機で「温かい」コーヒーやスープが買えることでした。なぜかという、オーストラリアでは、自動販売機は冷たい飲み物しか売っていないからです。到着後、ホストファミリーに「秋葉原に行きたい」と軽く話すと早速連れて行ってもらい、そこで見た電化製品の品ぞろえと、人の多さに頭がグルグルと回ってしまいました。すべての店に入りたかったのですが、2・3日あっても無理だろうと痛感しました。初めての日本、その一日目

をまとめると、まさに「感動の連続」でした。

次に、いわゆる地方の山梨へ行くと、どこを見ても自動販売機やコンビニが当たり前のようにあり、「なんて便利な国なんだろう」と繰り返したものです。自動販売機では、ビールまで売っていました。面白すぎです！オーストラリアでは、地方に自動販売機はほとんどなく、設置されているのはたいてい、駅の外や店舗の中、観光地だけですので、家の目の前でコーラなどをいつでも購入できるのは、夢のような素晴らしいことでした。

また、郵便物が週末でも届くことや、再配達を頼めることもうらやましい限りです。オーストラリアの場合、配達時に不在だったときは、各自が近所の郵便局まで取りに行かればなりませんし、郵便物の週末配達などは、ほとんどありません。さらに日本には新幹線やJR利用時などに便利な電子マネーカード、2次元バーコード、多機能携帯電話、高速インターネット、代行タクシーなど、他国にはない便利なサービスがたくさんあります。ですから、「白石は田舎」とよく言いますが、「本当はそれほど不便ではないのでは？」と思うのですが…。

まちの話題

～あの日、あの時～

登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流「軟式野球大会」

7月27日、姉妹都市の北海道登別市から24名の少年野球選抜チームが白石を訪れ、白石選抜チームとの試合を通して姉妹都市間の交流を深めました。

益岡公園野球場で行われた本大会では、選抜チームをA・Bの2チームに分けて2試合を実施。いずれの試合も1点を争う好ゲームとなりました。迎え撃つ白石選抜チームの子どもたちも投打に奮闘しましたが、第1試合は6-5、第2試合も5-4と惜敗。試合には負けたものの、力の限り戦った子どもたちに、会場から温かい拍手が送られました。ホームステイ交流などを通してお互いのきずなを深めた子どもたち。閉会式後、スパッシュランドしろいしに向かう登別市の子どもたちとの別れを、いつまでも惜しんでいました。



両市の代表4名による選手宣誓



快音を響かせる白石選抜チームの打者